



engagen

エンゲージ エン

～衣服が記憶するわたしたちの過ごした時間～ 前田博子展

2019.2.14^{thu}—2.17^{sun}

福井市美術館 [2F企画展示室・市民ギャラリー]

9:00—17:00 入場無料

◎お問合せ／仁愛女子短期大学 生活科学学科 生活デザイン専攻 tel.0776-43-6616

◎後援／福井新聞社 ◎協賛／福井仁愛学園

たたんで、ひろげて、 日常は積み重ねられる。

わたしたちは常に衣服を纏い暮らしています。

衣服は無くしてはならないものですが、いつか使い捨てられるようになりました。布や衣服は人と人、人と社会をつなぐものとして技術が開発され、創造されています。わたしたちが常に着用している衣服は消耗品として扱われがちですが、わたしたちの暮らしを支えていることに変わりありません。

そんな現状を踏まえ、集めた衣服や集まった衣服で新たな衣服を制作してきました。それらはわたしにとって縁ある人のためにつくった日常着や儀礼服です。誰かが着終えた服をまた誰かが着ることで、衣服の記憶が追記されると考え、想いを纏うなんてキザな事象を具現化しようとしています。

本展覧会はわたしの近い人たちのためにつくった衣服(『可変の衣服』や『おもてうらなしおもてなし』等)とわたしの知らない人が遺した布(『見知らぬ女性がのこした空』)とが混在します。これらは一見関連性のないものだと思うでしょう。しかし共通することはそれら全て「畳んであった」ということです。わたしたちの畳むという行為には小さな約束が込められています。「いつか着るよ」「いつか使うよ」これらの約束を果たす時わたしたちは畳んだものを広げるのです。畳んで広げ、畳んで広げを繰り返すことで日常を積み重ねています。その重なりによってヒトが過ごした時間や日常を衣服が記憶し記録しています。

ヒトには関係や想いをあらわす矢印が向かっていたり、矢印を送っていたりします。それらの相互作用によって社会が形成され日常の暮らしへとつながっているのではないのでしょうか。ヒトとヒトとの間にうまれる小さな矢印が家をつくり、村をつくり、社会を形成してきました。わたしたちは資本主義、便宜主義に溺れるあまり、営むことへの敬意やモノへの尊敬を失っています。

本研究は効率の良い暮らしを求めるものではなく、面倒なことをわざわざやってみて、非効率な時間を過ごすことから、より豊かな暮らしを模索しようとするものです。「縁」が「縁」をつなぎいくつもの小さな約束が交わされる「圏」であるようにと展覧会タイトルを engage + en = 「engagen」としました。

布も人も重宝された昔々。そうではない現状社会に対して問いを投げかけたいのです。その問いに対して人や社会、それらを包む衣服について省察、考察していただければ幸いです。皆さまのご来場お待ちしております。

—『engagen~衣服が記憶するわたしたちの過ごした時間~』前田博子展

Maeda + Hinata.



見知らぬ女性がのこした空

知らないヒトの衣服や布、生活が閉じ込められた家。いつか使おうとっておいたであろう誰も使わないもの。つくりかけの衣服、穴のあいたセーター、畳まれた布。遺した生地から残された想いを空に見立てよう。畳まれたものを広げられれば誰かを守り、彩るモノになる。

HAPPY BIRTHDAY / 60



60 years old



赤くなったちゃんちゃんこ

各人が着ていた衣服を赤く染めて、円にキリトル。縁からつなぐ円の赤いちゃんちゃんこ。60歳になった日はみんな赤い服。

赤い衣服のちゃんちゃんこ

赤い布、赤い衣服を集めて赤いちゃんちゃんこをつくる。みんなの想いを纏うことの施策と実践。

おもてうらなし おもてなし / 結婚式衣装

家族、友人、知人から集めた白い服。ひとつひとつ解いて組み立てる。祖母から母へ、母から娘へと教わったことを纏うように。母や祖母の日常着が娘の儀礼服へ。日常の集積が形成したおもてうらのない服。

24 years old



七五三の三 / 七五三衣装

祖母の寝間着。父から借りたネクタイ。母がチクチクしたボタン。ばあちゃんの服がボクへの服に変わり、衣服に記憶が追加されていく。

可変の衣服 / 日常着

子どもの成長とともに大きくなる衣服。衣服が子どもの成長と共に歩み、成長の傍らでそっと寄り添いながら日常を記録する。



1 years old

3 years old



●前田博子展に寄せて



前田 博子

仁愛女子短期大学 講師
金沢美術工芸大学大学院 博士後期課程

京都造形芸術大学染織コース卒業。金沢美術工芸大学大学院ファッションデザインコース修了。テキスタイルデザイナーを経て、繕いにより継承される衣服文化についての考察を行う。主な展覧会「packing...」[en-ter]

私たちと衣服

須藤 玲子氏 / テキスタイルデザイナー

デザインは、衣服との対話から生まれるという前田博子さん。その作品の題材には、衣服をめぐる所作があらわれている。「畳む行為」に着目したおらかな作風だが、その背景には、現代のテキスタイル、衣服と人間生活、あるいは社会との関わりについての問題提起がある。身体と衣服の関係についての深い洞察は「服は縁が縁」という視点、身体と布の間にできる空間・空気が心身に自由な感覚をもたらす「矢印」の作用という、実にユニークな考えから作品が展開している。私たちが何気なく纏っている衣服について、深く考えるきっかけをもたらしてくれた。

人間と文化の問題をあぶり出す。

横山 勝彦氏 / 金沢美術工芸大学大学院専任教授

前田博子さんは、新奇な服を作っているわけではない。日常で着用することのできる衣服を作るのは、それにまつわる人間と文化の問題をあぶり出すためである。衣服の制作を通して彼女は、私たちが通常意識することのない「衣文化」を根本から考え直そうとしている。言葉と同様に衣服は、人間の根幹を支えているという認識から出発し、多彩な制作を展開する彼女に期待している。



engagen エンゲージ エン

~衣服が記憶するわたしたちの過ごした時間~ 前田博子展

2019.2.14^{thu}—2.17^{sun}

福井市美術館 9:00—17:00 入場無料

[2F企画展示室・市民ギャラリー]

〒918-8112 福井市下馬3-1111 tel.0776-33-2990

◎お問合せ / 仁愛女子短期大学 生活科学学科 生活デザイン専攻 tel.0776-43-6616

◎後援 / 福井新聞社 ◎協賛 / 福井仁愛学園

同時開催

仁愛女子短期大学
生活科学学科 生活デザイン専攻
卒業研究展 2019

2年間の学びの集大成である卒業研究を広く社会に提案・発表する機会として、卒業研究展を開催します。

- 会期: 2月14日(木)~17日(日)
- 会場: 仁愛女子短期大学
- 主催: 生活科学学科 生活デザイン専攻

専攻の作品・活動アーカイブページができました!



公開講座
「あなたの知らない和紙の世界。」

2018年5月に和紙1300年大祭が行われた話を交えて1500年の歴史ある和紙について、現在の取り組みと未来への和紙への思いをお話していただきます。

- 日時: 2月16日(土) 14:00~
- 会場: 仁愛女子短期大学 [入場無料]
- 講師: 杉原吉直氏(和紙ソムリエ)
- 主催: 仁愛女子短期大学 地域活動実践センター 生活科学学科 生活デザイン専攻
- 問合: 仁愛女子短期大学 tel.0776-43-6616

